

\* パイプ道路がアジアの平和と活性化の端緒になれば \*

1 背景と構想

今、国境を越えての観光が盛んになりつつある。互いの交流と見聞、理解が広まれば国と国の「なかよし」度も深まり、自ずと平和を醸成する。

かつて、日本とヨーロッパを結ぶシルクロードがあった。互いの文化、芸術、好奇心、欲望の交換があったようだ。

九州はアジア大陸に最も近い位置にある。そこで福岡県、糸島半島から長崎県の離島にパイプを伸ばし海底に固定して、朝鮮半島は釜山を結ぶ「海中ロード」を提案します。

(資料1参照)

2 パイプ道路の概要

- ① 材質、 透明強化プラスチック
- ② 寸法、 直径20メートル、総長およそ170キロメートル
- ③ 構成、 3層構造とする。最下層＝ライフライン 中層＝海中車道  
最上層＝海中歩道 (資料2参照)

3 予想される効果

- ① 九州と離島の一部、大韓民国、やがてはアジア大陸間の交流と活性化。パイプ道路建設に向けて、近くはKTX(韓国高速鉄道)、九州新幹線などの広域網の完成と韓国・九州広域発展機構構想の具現化に向けたフォーラム開催などの各界人的交流。
- ② 環境調査＝パイプの一部に海洋調査所を設けて、日本海の海底調査・探査。
- ③ 各種イベントの海中での実施。例えば、国際マラソンをパイプの歩道で行う。
- ④ 30キロメートルごとに宿泊所を設け、より多くの人々に海中ウォーキングを体験して頂き、健康増進の一助としてもらう。

4 過去の構想

大東亜戦争時、佐賀県呼子から釜山に向けて、海底トンネル構想があったと聞く。



# 「時をかけるシルクロード」

至  
中国  
ローマ



日本海

釜山

約  
60  
km

対馬

約  
60  
km

壱岐

約  
50  
km

山口県

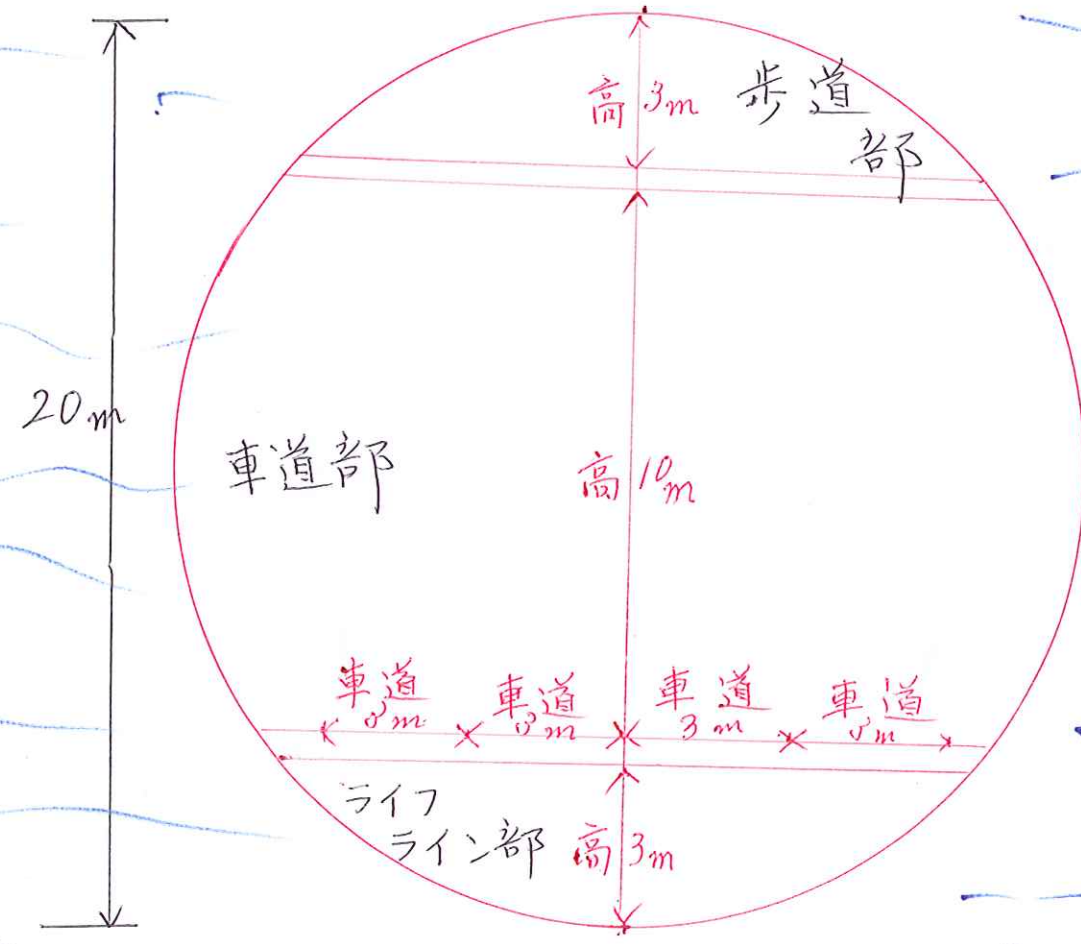
長門県  
福岡県

九州

パイプ  
道路

～資料～

# 時をかけるシクロード



# 海底

—資料2—